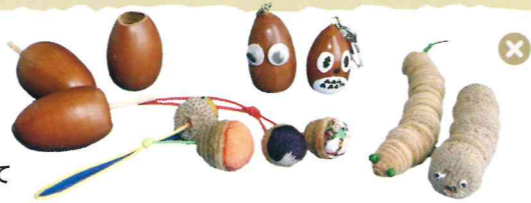


つくってみよう /

# どんぐりの背くらべ

“どんぐりの背くらべ”とは、どれもあまりかわりばえのしないものどうしが競い合っている様子をさす言葉ですが、実際に背くらべをさせようとどんぐりを立たせてみると意外とむずかしいものです。クヌギのようにあぐらをかいたような形のどんぐりならともかく、コナラやカシのどんぐりはお尻が丸くて大変です。でも、大田区に多いマテバシイは数少ないお尻の平らなどんぐりです。工作の材料にもなるので、身のまわりに落ちているどんぐりを集めて、アクセサリーづくりをしてみてください。



	スタジイ	アカガシ	コナラ	マテバシイ	クヌギ	トチノキ	オニグルミ	ムクロジ	ケヤキ
	ブナ科 *どんぐりとは、ブナ科の殻斗をもつ果実をさす俗称					トチノキ科	クルミ科	ムクロジ科	ニレ科
	常緑	常緑	落葉	常緑	落葉	落葉	落葉	落葉	落葉
殻斗(皿)の模様	裂ける	輪	うろこ	うろこ	トゲ				
実のなるまでの期間	2年	2年	1年	2年	2年				
	実は生でも食べられるが、炒って食べるとおいしい。	材が赤いカシの仲間という意味。	葉の小さなナラからコナラ。	日本固有。もとは九州、沖縄に分布。実は生でも食べられる。	枯葉をつけたまま、越冬することもある。	花は大量の蜜を出す。大きな実は、縄文時代から食用として利用。	大田区では多摩川河川敷に自生。果皮を取り除いて殻を干したものが“クルミ”。	果皮にはサポニンが含まれ、古くから石鹸代わりに使われた。黒い種子は、羽根つきの羽のおもりに使われる。	日本を代表する巨木のひとつ。種は、いっしょについている小さい葉を羽代わりにして、風で飛びます。

くらべてみよう /

# 葉っぱのグラデーション

高い樹木の上のほうについて、夏のあいたは緑一色だった木々の葉が、秋になると赤や黄色、茶色になって足元に落ちてきます。そして、その大きさや形も様々です。いろいろな葉を集めて観察してみてください。

## 緑色

光をとらえて栄養を作るための色です。役目を終えると緑色の色素はこわれて、隠れていた別の色が出てきます。

## 黄色

緑色の葉っぱにも含まれていたのですが、緑色がなくなると見えるようになります。

## 赤色

緑の葉っぱにはありませんでしたが、気温が下がると、緑の色素がつくれた栄養で赤い色素をつくるようになります。まだ緑の色素が残っているうちは、赤黒い色をしています。

## 茶色

いらぬものがたまって、葉っぱが死ぬと茶色の物質になります。

かんじてみよう /

# 木にふれてみよう

寒い日に木にふれてみませんか。見た目以上におもしろいのが、木肌の感触です。ゴツゴツ、チクチク、ツルツル、ザラザラ…。さわっているうちに、意外と木肌の温かいことに気づくはず。冬、大きな木が温かいのは、井戸水のように地下深くの水を吸い上げているせいかもしれません。



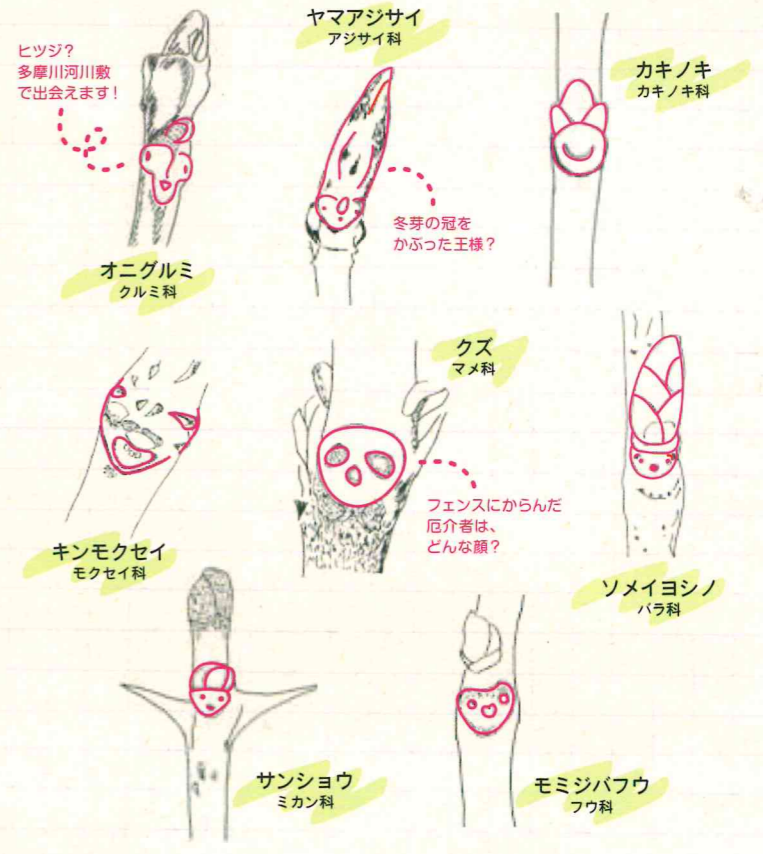
みつけてみよう /

# 葉痕と“にらめっこ”

冬、多くの生きものは土の中で冬眠したり、卵やサナギの姿で寒さをのりきりますが、植物には葉を落として春を待つものがあります。葉と枝をつなぐ部分を葉柄と言い、葉の落ちたあとを葉痕と言います。葉痕には水や養分の通る管が集まった束の跡がはっきり見えます。それがサルやヒツジ、人の顔のような模様になって見えます。身近な植物でも探してみてください。



ニセアカシア マメ科



きいてみよう /

# コオロギ ~秋のハーモニー~

だれもが身近に聞いて秋を感じる音色がコオロギの鳴き声ではないでしょうか。人家の周辺、庭先、公園の隅の草やぶ、多摩川の河川敷などでよく聞かれます。大田区では、ツツレサセコオロギ、オカメコオロギ、ミツカドコオロギ、エンマコオロギなどがみられます。コオロギを飼育観察するときは、キュウリなどの野菜のほかに必ず煮干しや削りカツオをあげてください(雑食性)。秋の夜長、そっと耳をすませて、コオロギのハーモニーを聞いてみてはいかがでしょうか。



**ツツレサセコオロギ**  
コオロギ科  
家の周辺でもよく見られるコオロギ(1.5~2センチ)で、オスは夜に「リーリーリー」と鳴きます。単にコオロギと呼ばれることが多いのがこれです。



**エンマコオロギ**  
コオロギ科  
人家の周辺にもいますが、大田区では多摩川の河川敷でよく見られます。日本産のコオロギの仲間では最大(2.5~3.5センチ)で、オスは「コロコロリー」と大きな声で鳴きます。